

Marine



「Plenty of handy things」
エリコ ヤスコープカ(富山大学)
2015年 優秀賞

長らく自然と生物は共存してきた。

しかし現在、私たち人間と自然はその関係にあると言えるだろうか。



「漂流」 高橋 健二 佐藤 弘隆 中村 謙(富山大学)
2015年 優秀賞

Litter

漂着物アート展
2016

平成28年 6.2(木) — 7.3(日)

9:00~17:00 休園日：火曜日

会場：氷見市海浜植物園

1階特設ギャラリー (入場無料)



「自然の時間」
上木 大輔(富山大学)
2015年 優秀賞

Art

プロデュース/富山大学芸術文化学部 後藤 敏伸

【主催】(一財)氷見市花と緑のまちづくり協会、(公財)種日本海漂焼協力センター
【後援】富山県、富山大学芸術文化学部、(公財)とやま環境財団
【協力・作品制作】富山大学芸術文化学部

Exhibition

富山大学芸術文化学部生
作品一覧

最優秀賞



忘れられた獣

市川 玄章

海で拾ったごみや流木から生まれた「獣」です。素材となっているごみはもともと何だったのか、誰のどんなものだったのかわかりませんが、海に流され、誰にも見つかることなく流れ着いたものをつなぎ合わせて生まれました。広い海にはたくさんの漂流物が今日も流れています。どんなものにもそれぞれに歴史や記憶があると思います。私たちはものを大切に、自分のものは最初から最後まできちんと責任を持つべきだと思います。ものを大切にすれば、自然にもきっといいことがあるでしょう。ものを、海を大切に。

優秀賞



海路の日和

齊藤 菜々子
森 みさき

海へ繰り出す日を夢見ながら
汚れた海を描いている。
待てば日和は訪れるのだろうか。

優秀賞



merrow

戸出 桐子
堤下 絢乃

私たちは、海で拾ったもので海に関するものを作ろうと思い、リトルマーメイドなど幼少期の思い出深い人魚を制作しました。漂流物をどの部位につけるかなど材料を生かす工夫を凝らしています。また、ほかの作品との差別化をはかり、木の廃材をところどころに使いました。展示も工夫しており、空間を利用したインスタレーション的要素を含んでいます。

奨励賞



漂流者達の居場所

小笠原 寛仁

生活をテーマに、海辺に流れ着く物で小さな彼ら漂流者は自分たちが住むための場所を作り、そこに生活、活動の拠点としている場面を作成しました。

漂流者たちは流木や廃棄物といった漂着物とは違う紙粘土を用いて姿形を作っています。他と違った材料で作ることで漂流者達が異端であることを示しています。

生活という何気ないテーマに謎の漂流者という要素が加わることでその場面の奇妙さを表現し、彼らは何者で、何故この地に漂着したのかと想像がふくらむ作品にしようと考えました。



なれのはて

中澤 映佳

この作品のコンセプトは「小さなゴミでも、放置しているといずれ自分の身に危機が襲いかかるほどの脅威になる」です。

どんなに小さな物でもたくさん集まれば大きな物になります。外側から内側へ、渦をかくようにゴミを増加・付着させ、最終的に口を大きくあけた魚へと形作りました。その魚の目の前に、松ぼっくりが細い木の上にあります。この松ぼっくりは人を暗示しており、「口を開けている魚(ゴミ)に飲み込まれそうになっている松ぼっくり(人)」とすることで、「危機はすぐそこまで来ている」ということを表現しました。

奨励賞



UNDERMINE

西谷内 和枝

海や魚がゴミを食べさせられているように魚を食す我々も、いつか自身が捨てたゴミたちによって蝕まれてしまうのではないだろうか。

流木と縄

宗重 隆之

海岸で拾った流木を同じく拾った縄だけでつなぎ合わせて形作った。ビスや接着剤などではできない、縄独自の縛り合わせる、織り込むといった固定法を用いることで、漂流物のもつ自然に流れ着いた感を失うことなく形にできるのではないかと思い制作した。



TAKO

かわもと まみ

浜全体に広がる漂流物を見て
拾いきれないと思った。
たくさんの手がかき集めてしまおう！



「I」

惣名 茜
吉田 愛貴

辿り着いた先、生物の連鎖から外
されてしまった私。
艶やかで美しく優雅。
粗雑で醜く惨め。

それでも両方同時に私であること
は変わらない事実。



暗虫模索

惣名 茜
吉田 愛貴

他人の言葉の波のまにまに、流れ、流され、漂ううちに身はつぎはぎとなり、それでも形には成ってしまう。

出来るなら、

と理想の形を思い浮かべて、今日も虫はさすらっている。



盲信

片山 ほのか

私は貝殻を拾った、たくさん拾った。私はそれらで人を模った、ある種の目的や意図、いわゆる「メッセージ」を携えたつもりで。なんの疑いもなく、一生懸命ペタペタと貝殻を貼った。製作を進めるにつれて私は疑問に思い始めた。「芸術に意味や価値はあるのか。」時期が来れば、廃棄されるのだ。放っておけば自然に還るはずだった貝殻たちを、私は「燃やせるゴミ」に変えてしまった。これは正しい行いだっただろうか、芸術は正常とは言い切れないのではないだろうか。



そして、此処に咲く

貝塚 悠乃

貝殻も流木も骨も、かつては生きていたモノたちです。命尽きた彼らは波に吞まれ海を漂い、やがて浜へ打ち上げられました。遺された「形」は亡骸と呼ぶには美しく、時の中で色褪せ、埋もれながらも確かに彼らが存在した証として、咲くのです。



天秤ばかり

土田 純平

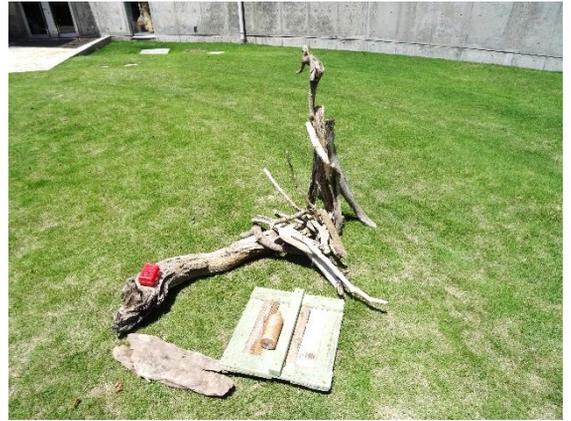
コンセプトは「海の環境のバランス」です。この「バランス」ということを表現するために、漂流物で天秤を製作しました。天秤も海の環境もそのバランスを崩すのは簡単ですが、もう一度バランスをとるためにはバランスを崩したときよりも多くの時間がかかります。今の海はこの天秤のように辛うじてバランスを保っていますが、このまま海のゴミが増え、汚染が続くといつ海のバランスが崩れてもおかしくないということを表しました。



キレイの響鳴

若松 建吾

漂流することで海のキレイ成分を吸収した漂流物。自らが持っている魅力とが混ざり合うことで、奥行きのある色味や風合いを醸し出す。そんな漂流物のどうしの響き合を魅せたい。



漂着

森山 円

海からの漂着ゴミは、以前誰かの生活の中で使われていた物です。波にもまれる生活用品は、自然の中で溶け込むことはなく、一層際立ちます。海の波を流木で表現しました。漂着ゴミは色が際立つものを選びました。



未来

滝下 愛美

その先にあるのは、



漂流三日目

原 豪士

漂流物を使ってキャンプをしている様子表現しました。つるしてある貝殻や、焚き火を模した木で、よりリアルな雰囲気を出しました。

漂着物アート展 2016

県内をはじめ国内の海岸に流れ着く多くの漂着物（漂着ごみ）、そして、日本国内からも流れ出ていくたくさんのごみ（漂流ごみ）… きれいな海岸の景色を損なうだけでなく、海に暮らす生き物や漁業への影響も心配されています。

こうした海洋ごみのほとんどが身近な生活ごみであることを、皆さんご存じでしたか？ 私たちは、知らず知らずのうちに大切な海を汚しているのです。きれいな海を将来に残していくためには、私たち一人ひとりがこのことを理解し、身近なごみをきちんと始末するなどの取組みをすぐに始めることが必要です。

このようなことから、次の時代を担う青年芸術家が海岸漂着物を利用して制作したアート作品を展示する「漂着物アート展 2016」を開催いたします。

このアート展をきっかけとして、私たちの大切な海を守るために何をすべきか考え、みんなで行動してみませんか。

氷見市立蓬小学校 4年生の作品も展示します。
6/8 (水) ~ 7/3 (日)

お問い合わせ先



氷見市海浜植物園
富山県氷見市柳田 3583
TEL0766-91-0100



(公財)環日本海環境協力センター
富山県富山市牛島新町 5-5
TEL076-445-1571